

## サケ類遡上調査対象候補河川の比較

	本流	遺産地域の区分	車両でのアクセス	サケマスの捕獲と放流	河川工作物設置状況	遡上等の状況、産卵環境	ヒグマの出没(河口)	過去の継続的遡上調査	長期モニタリング対象としての総合評価
斜里側	テッパンベツ川	すべてA地区	可能だが、ウトロ市街地から遠い。また、ルシャ川の橋が通行できないことがある。	なし	なし	自然遺産候補地の中ではサクラマス資源が一番良好な状態。自然産卵で再生産している遺伝資源としてシロザケ個体群を保全する必要(野生鮭研究所2005)	頻繁 カラフトマス産卵期での中上流域調査は不可能(野生鮭研究所2005)	なし	知床の本来の姿をとどめる河川として有意義。ただし、ヒグマ出没のため河口部のみでの調査にとどまるとともに、アクセスに弱点がある。
	ルシャ川	すべてA地区	可能。ただし、ウトロ市街からは遠い。	あり	床固工3基(すべて改良済み) 魚止め1基	他河川と比較して、判明している範囲では、3種とも産卵可能な範囲が最も広い(野生鮭研究所2005) ダム改良により、シロザケとカラフトマスが上流まで遡上するようになった。	頻繁	H17～21年 (ダム改良効果調査:終了)	ダムや捕獲・放流はあるものの、IUCNからも注目されている河川として有意義。遡上状況も改善された。ただし、ヒグマ出没のため下流域の調査にとどまる。
	イワウベツ川	上流域を除きB地区	良好	あり。サクラマスの放流もあり。	谷止工等26基(改良済み6基) 魚止め等3基	河口にある増殖施設がシロザケとカラフトマスの一部を上流へ遡上させている。サクラマスはわずかに遡上。支流の赤イ川～白イ川についてはダム改良により上流まで遡上が可能になった。	出没	H19～22年 (ダム改良効果調査:継続中)	河口部での捕獲事業のために限られた数しか遡上しないが、集中的なダム改良により上流まで遡上が可能になった支流の赤イ川～白イ川については意義がある。
	ホロベツ川	上流域の一部を除き、ほとんどがB地区	良好	なし	流路工等5基	良好なカラフトマス・シロザケの自然産卵環境が保たれている(野生鮭研究所2005)	出没	H19年、21年 (海域WG長期モニタリング:継続中)	アクセスが良い場所にありながら自然状態が保たれ、ヒグマの出没も相対的に少なく、有意義な河川。ただし、河川の大半がB地区。
羅臼側	ルサ川	下流域はB地区	良好	なし	なし	羅臼側の河川では、自然産卵個体群の数の多さ、及びその保全状態が最も良好な河川(野生鮭研究所2005)	出没	H19年、21年 (海域WG長期モニタリング:継続中)	アクセスが良い場所にありながら自然状態が保たれており、羅臼側を代表する河川として適切。

注：A地区とは旧コアゾーン、B地区とは旧バッファゾーンを指す。